醸すまち

~ スポーツ健康文化の醸成と未来 ~

まちを歩く、そこには多様なスポーツが溢れている
そんな日常を過ごせば、心身ともに健康に
このまちで暮らすことが、スポーツであり、健康であり、Well-Being である
それはもはや、このまちに根付いた「文化」

私たちの提案はそのような文化を醸成し、
まちも人もエネルギー溢れる未来を築いていく

1 スポーツと社会課題

近年、我が国の抱える社会問題として、人口減少・少子高齢化が挙げられる。それによる必要医療費の拡大等が問題視され、国民全体で健康に対する意識や関心が高まっている。これに対し、スポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査（令和 4 年度）」では、運動・スポーツの実施場所として、”まち中” が挙げられている。スポーツ庁は、低未利用地や既存ストックの活用を促進し、スポーツの場の量的・質的な充実により、まち全体がスポーツを楽しみ、親しめる場を作るまちづくりを目指している。以上より健康 × 地域課題の解決を両輪で進めながら、まちを醸酵させ豊かで健康なまちを徐々に作り出していく必要がある。

2 対象地の概要：福岡県那珂川市

「する」「見る」「出会う」「支える」この 4 つの方針を実現するための対象地を選定するにあたって、ニュータウンであること、中核都市のベッドタウンであること、出生率が高いこと等を条件とした。10 年後の未来とそれからを共に歩んでいけるような、体力のあるまちとして福岡県那珂川市を選定した。

筑紫郡那珂川町から那珂川市へ
1956 年の那珂川町発足時から豊富な自然環境と福岡市に近い立地から人口増加が進み 2018 年 10 月に那珂川市となった。

大都市博多のベッドタウン
博多南駅は博多駅まで 8 分でアクセスでき、通勤・通学に好立地である。大都市博多のベッドタウンとして栄えている。

出生率の高さ
平成 25 年から平成 29 年の市区町村別合計特殊出生率は、全国平均や福岡県平均と比較して高い。

那珂川市の現在の出生率から、多くの乳幼児たちが 10 年後には小中高生となる。若者から高齢者まで幅広い年齢層の住民がともに暮らし、まちとしてエネルギー溢れる那珂川市。10 年後、まち中の至る所でスポーツが楽しまれ、住民らの健康を支える文化が醸成されたまちの姿は想像に容易い。

一方で地域課題としては、以下のような点が挙げられる。
- ベッドタウンとして人口増加を続けてきたが、今後は高齢化を見据えた各拠点の機能強化や連携が必要である。
- 市街化区域内で形成される高密度な市街地では、空き地や空き家が点在しており、未利用地の活用が必要である。
- 市街地内の公園の多くは昭和 50 ～ 60 年代に整備されたもので、時代のニーズに応じた再整備が必要である。
- 地域のアイデンティティである那珂川に背を向けた土地利用がなされている中心拠点は、開かれた空間の創出が必要である。

■那珂川市の取り組み

○博多南駅前ビルナカイチ
このビルは公民連携により管理運営が行われている。「遊ぶ」「学ぶ」「つかう・はたらく」「味わう・くつろぐ」の 4 つの軸からプロジェクトを生み、文化としごとの交わりを大切にしている。

○ミリカローデン那珂川
那珂川市の複合文化施設。中にはプールやジムに加え、スタジオがある施設もあることから、市民の健康維持・増進の大きな役割を担っている。

○まちづくりの碑
那珂川市では昔、地権者らが安徳土地区画整理組合を設立し、住民のみで区画整理を行った。住民らの団結力やまちづくりに対する意識の高さが伺える。

■那珂川市中心拠点内の主要ストック

3 提案の軸～まちとスポーツ する・見る・出会う・支える～

これ等の背景から、私たちは “まち中” で、幅広い年齢層が楽しみながらスポーツをし、スポーツとともにある生活をつくることを目標とする。
そこで、スポーツに対し
①する ②見る ③出会う ④支える
といった、スポーツとの多様な関わり方をまちに充実させることが大切になる。

①スポーツをする
- 部活動、プロスポーツ、社会人チーム
- 公園での遊び、放課後の鬼ごっこ etc...

②スポーツを見る
- スポーツ観戦
- まち中のスポーツを眺める etc...

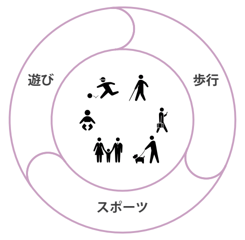
③スポーツと出会う
- 新しいスポーツを知る
- やったことのないスポーツを体験する etc...

④スポーツを支える
- レッスンの送り迎えや公園の維持管理、そして「する・見る・出会う」の全てがスポーツを支えるである。

4 提案の概要

多様な属性を持つ地域住民の健康を包括的に支えるには、「**スポーツ**」「**遊び**」「**歩行**」という多面的な視点から展開する施策が必要であると考えた。

そこで私たちは、「**3 つの空間整備 × 醸成**」によるまちづくりを提案する。この包括的な施策は、多くの地域住民を巻き込むことで健康を支える文化を醸成する。



5 3 つの空間整備

3 つの空間整備の具体的な施策として、「スポーツネットワーク」「河川空間の利活用」「ウォーカブル空間の創出」を行う。

スポーツネットワーク

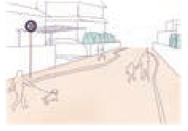
シェアスポーツスタジアムをはじめとする施設を整備し、地域住民が日常的にスポーツと触れ合う機会を創出することで、健康だけでなく地域産業の成長や人材育成など様々な視点から地域活性に貢献する。

河川空間の利活用

豊富な自然資源にも関わらず低未利用に留まっている**那珂川**や**梶原川**を活用し魅力ある河川空間を創出することで、日常的な親水性を高め、暮らしの質を向上させる。地域の資源を最大限活用し、まちの誇りと愛着を育む。

ウォーカブル空間の創出

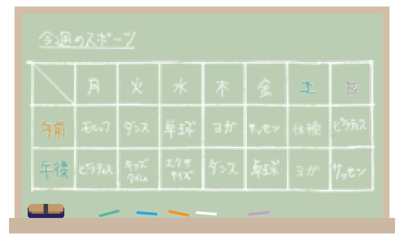
魅力ある空間の創出だけでなく、安全にその空間にアクセスできることが重要である。また、生活習慣病や認知症の予防にもつながる。拠点の整備と周辺地域の車両の速度制限などにより、『**行きたくなる × 安心安全**』**なまち**を目指す。



■シェアスポーツスタジアムとは

曜日や時間帯ごとで開催するスポーツ教室やその指導者が替わり、地域で指導者がチャレンジ的に自身のスポーツ教室を開催できるような支援を行う施設である。この施設で低リスク、小資金からスタートし経験を積んだ指導者は、健康、経済、人材育成、コミュニティ形成など多面的な効果をもたらしながらステップアップし、地域の活性化に貢献する。また、近年性別や体力を問わず、誰でも楽しめるニュースポーツの台頭を踏まえ、様々なスポーツを楽しめる施設を提案する。

○曜日時間帯で入れ替わるスポーツ例



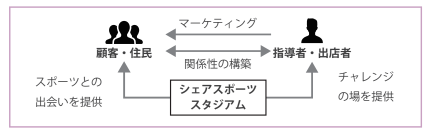
○各主体のメリット

顧客・住民
- シェアスポーツスタジアムを訪れる楽しみ、ワクワク感
- 体験したことのない多様なスポーツと触れ合いの機会の創出

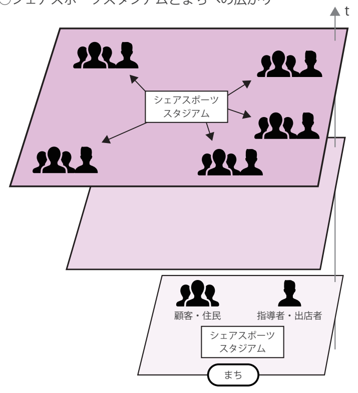
出店者・指導者
- 自身のスポーツに対するマーケティング
- 地域との関係性構築、本格出店に向けた環境づくり

まちづくり
- 人材を獲得・育成
- 新たなマーケットの開拓、産業の活性化
- 交流の場の提供、コミュニティ形成

○シェアスポーツスタジアムと周辺関係図



○シェアスポーツスタジアムとまちへの広がり

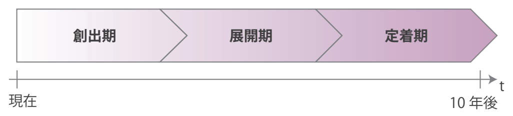


多くの主体にメリットをもたらし続けることで持続可能性を担保する。
また、まち全体へ波及効果をもたらしながら、成長し続けることでまちを支える。

6 文化の醸成

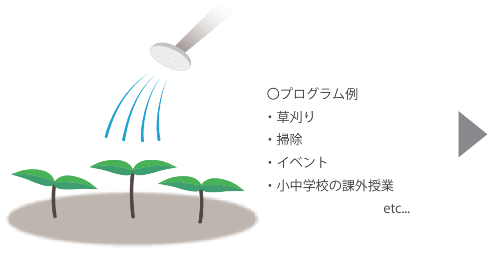
文化の醸成は、時間経過とともに創出期、展開期、定着期の 3 段階によって成される。
創出期：地域住民がスポーツと触れ合う機会を創出し、スポーツの楽しさ、素晴らしさを知ってもらう。
展開期：スポーツをする人、出来る場がまち全体に広がり、多くの人がスポーツを楽しむようになる。
定着期：スポーツを楽しむ日常が続くと、当たり前の事へと昇華し、それはまちの文化として定着する。
これらの期間を経て、スポーツ健康文化が醸成され、まちも人もエネルギー溢れる未来が生まれる。

○時間経過と文化の醸成



■醸成の仕組み

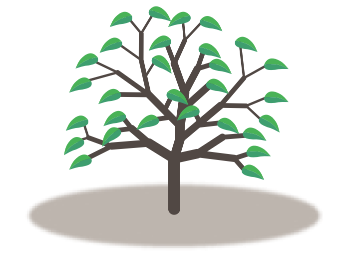
私たちの提案する 3 つの空間整備によりまちに整備された良質な土壌で、まちと人との「繋がりの森」を育てていくには継続した水やりが必要である。
維持管理やイベントを通じた継続的な空間との関わりは、水やりの役割を果たし「繋がりの森」を大きく根強く成長させる。



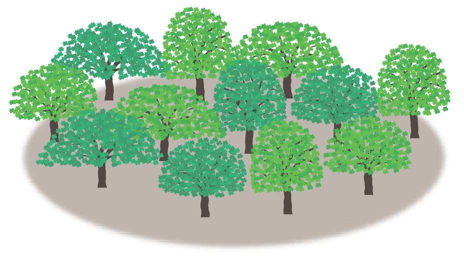
○プログラム例
- 草刈り
- 掃除
- イベント
- 小中学校の課外授業

etc...

継続した水やりを担う取り組みとして、上記のようなプログラムを実施する。様々なプログラムを通して、空間やまちとの関わりを持つことで、愛着が芽生え、その愛着は木の幹のように大きく太くなっていく。



大きく成長した愛着は、幹の成長とともに広がる枝葉のように、家族や友人・同僚などの人間関係を通じて面的な広がりを持ち始める。
木の成長とともに根も広がり、空間やまちに対しての愛着が根付いていく。



そうして大きくなった木は、空間やまちに対ししっかりと根付き、空間やまちに関わる人の数だけ存在する無数の木々とともに「繋がりの森」を形成する。大きな森が形成される頃には、木が根を張るように、スポーツや健康が文化として定着していく。

スポーツネットワーク

地域随一のお花見スポットである安徳公園には、シェアスポーツスタジアムとサクラベルトを整備し、既存のグラウンドや梶原川の親水空間と一体的にデザインすることで、スポーツ健康文化の拠点を目指す。
また、周辺の既存ストックを活用した施設を整備することでシェアスポーツスタジアムを中心としたスポーツネットワークを形成する。

■安徳公園

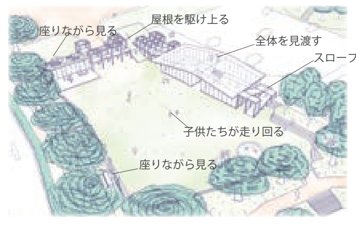
安徳公園には、北西部にシェアスポーツスタジアムを、外周に滞留空間と歩行空間を兼ね備えたサクラベルトを整備することで、梶原川の河川空間とともにスポーツ、遊び、歩行の全てにおいて機能するスポーツ拠点の役割を期待する。

○安徳公園入り口とサクラベルト

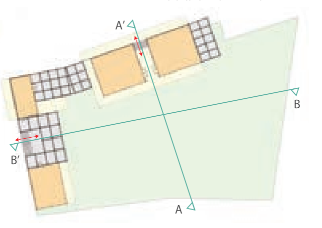
○サクラベルト断面図

博多南駅から直線でつながる通りに顔を向け、まちに開いた入り口とした。
サクラベルトには、歩行用とランニング用の動線を確保し、スポーツと歩行を安全に両立させる。また、桜の木陰にベンチを設けることで、滞留空間も確保した。グラウンドとサクラベルトの高低差はボールや子どもの飛び出しを防ぐとともに、スポーツをする人とベンチの滞留者との見る見られるの関係を創出する。

○シェアスポーツスタジアム



○シェアスポーツスタジアム平面図 （1:1200）

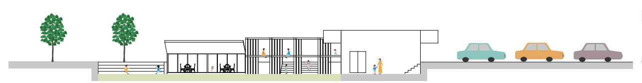


シェアスポーツスタジアムは、3 つの建物で構成されているが、半屋外空間で繋ぐことで独立しつつも、一体感のある構成とした。（1 F の半屋外空間だけでなく、屋上にも上がることが出来る）

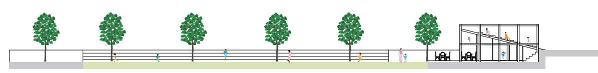
○梶原川の親水空間

安徳公園と隣接した梶原川は豊かな水辺空間として、地域住民の遊びや憩いの場となる。シェアスポーツスタジアムのデザインは、水辺空間への動線も考慮している。

○シェアスポーツスタジアム断面図（A-A′）



○シェアスポーツスタジアム断面図（B-B′）



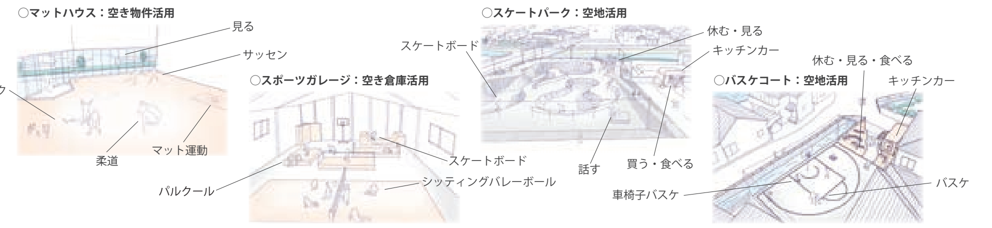
建物の高さは、安徳公園とシェアスポーツスタジアムが分断されないようにする為、出来るだけボリュームを抑えた。

安徳公園とシェアスポーツスタジアム間の移動を活発にする為、動線を意識した配置となっており、半屋外空間の上を通って繋がりを生み出している。

半屋外空間の上では、座る、歩く、立ち止まる、の視線の先に様々なアクティビティで溢れる空間が広がる。

■既存ストック活用施設の整備

空き家や空き地などの低未利用ストックを活用した整備を行い、地域住民のスポーツの場や指導者の成長機会を創出する。スポーツをする、見る、出会う、支えるを促すように空間をデザインし、まちに対しスポーツとの多様な関係を提供する。



ウォーカブル空間の創出

魅力ある歩行空間創出のためサクラベルトや那珂川遊歩道を整備。また、シェアスポーツスタジアムなどのスポーツ施設への安全なアクセスを確保するため、速度制限などを行うウォーカブルエリアを設定。

○ウォーカブル推進の全体像

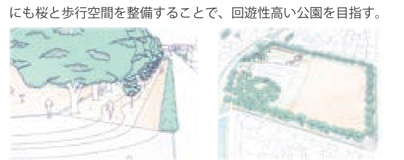
■ウォーカブルエリア

北は片縄下白水線、南は福岡早良大野城線を境界に設定し、博多南駅から那珂川までの範囲をウォーカブルエリアに設定。速度規制やスラローム、ハンプなどの導入により、安心して歩くことのできるエリアを目指す。

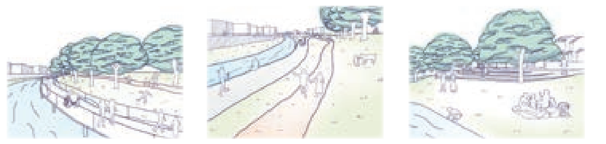
安全な歩行空間を確保することで、日常から地域住民の健康を手助けする。肥満・心臓病などの生活習慣病や認知症を予防し、まちの健康的な長寿命化を図る。

○安全な歩行空間

○サクラベルト
安徳公園の特徴の一つである梶原川沿いの桜に加え、公園外周にも桜と歩行空間を整備することで、回遊性高い公園を目指す。



○那珂川遊歩道
豊かな自然資源であり、地域の大きな特徴である那珂川。新たに遊歩道を整備し、景色を眺めながら散歩やランニングを楽しむことができるウォーカブル空間を目指す。



河川空間の利活用

市の名前の由来ともなる那珂川では、中心拠点エリアの流域を大きく 3 区間に分けて整備を行う。それぞれの区間で川幅や周辺土地利用を考慮した空間を提案する。各区間に固有の特徴があり、歩いて、遊んで、休んで、川の流れを眺めながらせせらぎを聴いて、毎日歩きたくなる。そんなアクティビティ溢れる日常的な健康増進スポットを目指す。

■下流域：水上遊歩道

○下流域の断面図（C-C′）

○下流域

下流域は、川幅が狭く沿川土地利用も住宅が多いため、河川内に水上遊歩道を整備した。水上遊歩道では、既存の桜並木を眺めながら散歩を楽しむことができる。
また、桜並木の内側にも舗装されていない自然な遊歩道を整備することで、その日の気分に合わせて散歩ルートの選択を可能にした。

水上遊歩道は、河川の水位が上がると川に浸かるため、日常との違いから水位上昇を汲み取ることができ、大雨時に川へ近づかないための一つの指針となる。

■中流域：親水遊歩道

○中流域

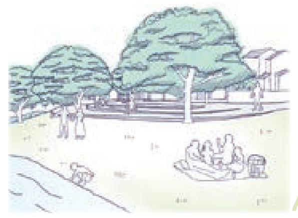
○下流域の断面図（D-D′）

中流域には、比較的広めの川幅を活かし、2 本の親水遊歩道を整備した。河川に限りなく近づいた親水性が高い遊歩道では、水の音や川の近く特有のさわやかな風を感じながら歩くことができる。
また、法面の中腹にも通路を設け、落ち着いて歩きたい人と川に近づきたい人との住み分けを図っている。

■上流域：大階段広場

○上流域の断面図（E-E′）

○上流域



上流域の河原が広い箇所には、大階段広場を整備した。
大階段広場は、私たちが提案する那珂川遊歩道整備の中でも最も広いオープンスペースである。大階段は、散歩や、ランニング、休憩や読書など、多様な用途で活用することができる。

さらに、既存の樹木に加え、木陰が作れるほどの大木を幾つか植えることで、芝生と木陰により、昼寝やピクニックなどを楽しむことができる、落ち着いた空間を創出する。

文化醸成、そして未来へ

「3 つの空間整備 × 醸成」により、「各拠点の機能強化や連携」「点在する低未利用地の活用」「時代のニーズに応じた公園整備」「那珂川の開かれた空間整備」などの課題が解決されたこのまちは、日常の至るところでスポーツが見られ、安全な歩行環境や自然資源との共存により、健康で活気溢れるまちとなる。
そして、醸成されたスポーツ健康文化は、「スポーツ」「人」「まち」の 3 つの要素全てに活力をもたらし、持続的な那珂川市を築いていく。

○「スポーツ」「人」「まち」の未来

スポーツ
多くのスポーツに対応した環境で、「する」「みる」「出会う」「支える」といったスポーツとの多様な関わりが生まれ、継続的な盛り上がりを見せる。

人
普段から習慣的にスポーツに触れ、日常の歩行から健康になる。文化として根付いた日々の暮らしが人々を心身ともに豊かにする。

まち
多世代にわたり健康でエネルギー溢れるまちになる。文化として地域に根付き、愛着が生まれ、住み続けたい那珂川市となる。

スポーツ健康文化が醸成された那珂川市は、
文化型健康都市としてスポーツと健康を文化として持続させるロールモデルとなる。